

科目担当者氏名		科目担当者連絡先(メールアドレス)	
(ふりがな)	りん めい 林 梅	[REDACTED]	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	なかの やすと 中野 康人	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I 18		6	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

調査士資格の取得を目的にした受講である面が大きいのと思われるが、調査を始めると大変興味を持って取り組んでいることが確認できた。  
問題関心と問いの設定で最も時間をかけて指導する必要性を感じた。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

## 1. 調査のテーマ/領域：

モノ消費からコト消費へ/経済社会学

## 2. 調査の内容/概要：

スタジアムで野球観戦をする人々をめぐる事例を通して、体験型消費の様態を明らかにした。

## 3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

スタジアムで野球観戦をする人々についてのインタビュー調査と、自らの参加観察 (体験型消費の象徴ともいえる、最も熱狂的な阪神ファンとその聖地としての阪神甲子園球場を選んだ)

## 4. 主な調査項目：

何をきっかけにスタジアムに通い始めたのか、一緒に行くことが多い人は誰なのか、観戦するようになって変化したことは何か、観戦するときの気持ちをどのように表現できるのか、どのような目的で観戦しているのかなど。

## III. データ収集の方法と結果

## 5. データ収集 (現地調査) の方法：

インタビュー、参与観察

## 6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2016年7月～9月・阪神甲子園球場・1人

## 7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：

自ら球場へ行き観戦することから始まり、見知らぬ人々にインタビューを行い、継続的な調査に繋げていくなど、初めて行った質的調査としては一定の評価に値する。

## IV. データ分析の方法と結果

## 8. データ分析/解釈の方法：

インタビューデータの分析を中心に、参与観察のフィールドノーツの分析も加えた。

## 9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

今回の調査では、従来男性の域とされていたスタジアムの観戦域に女性も参入していたことと、非日常的な居場所として日常的な規則やルールから解放される体験が、体験型消費への移行を強めていることが明らかになった。

## 10. 報告書刊行の予定と概要：

特になし

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。